

# インストールガイド

Arcserve® High Availability

バージョン 18.0

arcserve®

## 法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2019 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

## Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® High Availability( HA)
- Arcserve® Replication
- Arcserve® Assured Recovery®
- Arcserve® Content Distribution

---

## 第1章: Arcserve High Availability ドキュメント

Arcserve Replication/High Availability ドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特定のガイドとリリースノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以下のリンクをクリックします。

- [Arcserve High Availability 18 リリースノート](#)
- [Arcserve High Availability 18 マニュアル選択メニュー](#)

## Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

<https://www.arcserve.com/support>

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース( KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供：

製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、[こちら](#)までお問い合わせください。

# コンテンツ

第1章: Arcserve High Availability ドキュメント .....	4
--	---

第1章: Arcserve Replication/High Availability のコンポーネントおよび展開 .....	9
---	---

レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネント .....	10
コントロール サービス .....	11
エンジン .....	12
管理 センター .....	13
PowerShell .....	14
Arcserve RHA 展開 .....	15

第2章: Arcserve RHA コンポーネントの要件と環境設定 .....	17
---	----

コントロール サービスの要件 .....	18
エンジンの要件 .....	19
管理 センターの要件 .....	20
ClickOnce 要件 .....	22
PowerShell の要件 .....	24

第3章: Arcserve のインストール、アップグレード、およびアンインストールArcserve RHA .....	25
---	----

Windows Installer の登録 .....	26
Arcserve RHA の初回 インストール .....	27
インストールに関する考慮事項 .....	28
コンポーネント インストール ワークフロー .....	30
製品のアップグレード .....	31
段階的なアップグレード .....	33
Arcserve RHA コントロール サービスのインストール .....	34
コントロール サービスのインストールに関する考慮事項 .....	35
標準処理用のコントロール サービスのインストール .....	36
コントロール サービス役割切り替え用の2つのコントロール サービスのインストール .....	39
CLI を使用したコントロール サービスのインストール .....	41
Arcserve RHA エンジンをインストールする方法 .....	43
インストール ファイル Setup.exe を使用したエンジンのインストール .....	44
シナリオ作成 ウィザードを使用したエンジンのインストール .....	46
リモート インストーラを使用したエンジンのインストール .....	48
CLI を使用したエンジンのインストール .....	51
管理 センターおよびマネージャのインストールとオープン .....	53
Arcserve RHA PowerShell のインストール .....	54

---

Arcserve RHA のアンインストール .....	55
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンインストール .....	56
CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング .....	57
RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング .....	58
リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング .....	59
<b>第4章: IIS 7.0/7.5 における IIS 6.0 管理互換のインストール .....</b>	<b>61</b>
<b>第5章: SSL 自己署名証明書のインストール .....</b>	<b>63</b>
<b>第6章: 期限切れ SSL 証明書の更新 .....</b>	<b>67</b>
<b>第7章: 64 ビット OS で 32 ビット Oracle をサポートするために必 要な Oracle クライアントのインストール .....</b>	<b>69</b>





---

## 第1章: Arcserve Replication/High Availability のコンポーネントおよび展開

この章では、Arcserve Replication/High Availability コンポーネントの概要について説明します。また、これらのコンポーネントを Microsoft Windows プラットフォーム上に効果的に展開するガイドラインを示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネント</a>	10
<a href="#">Arcserve RHA 展開</a>	15

## レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネント

Arcserve RHA は以下 のコンポーネント から構成 されます。

- [コントロール サービス](#)
- [エンジン](#)
- [管理センター](#) - 概要 ページ、マネージャ、およびレポート センターの 3 つのコンポーネントで構成 されます。
- [PowerShell](#)

## コントロール サービス

「コントロール サービス」は、レプリケーションおよびハイ アベイラビリティの単一制御ポイントとして機能します。これには、既存のシナリオの全データセットが格納されています。コントロール サービスは、エンジンおよびマネージャの両方と通信します。シナリオの作成、設定、監視、および実行など、シナリオに関連するすべてのタスクはコントロール サービスによって管理されます。

コントロール サービスは、マネージャから受け取ったリクエストを処理し、特定のコマンドに変換してエンジンに渡します。次に、最新のデータとイベントをエンジンから受け取り、シナリオのステータスに関する情報と統計データをマネージャに送信します。

コントロール サービスは、ユーザの認証と許可も行います。また、レポート処理とストレージに関して中心的な役割を果たします。ユーザは、コントロール サービスによって蓄積される情報と統計データを、概要ページ、マネージャ、レポートセンター、および PowerShell で表示できます。

シナリオファイルはすべて、コントロール サービスが実行されるサーバ上に保存されます。コントロール サービスが停止しても、シナリオの機能は影響を受けません。ただし、シナリオのステータスに関する情報を受信するには、コントロール サービスがアクティブになっている必要があります。最良のパフォーマンスを得るには、コントロール サービスをスタンドアロンホストにインストールします。それができない場合は、コントロール サービスをマスタサーバまたはレプリカサーバのいずれかにインストールできます。ただし、サーバが停止している場合は、コントロール サービスとの接続が失われ、シナリオが管理不能になります。

個別のシナリオごとに Arcserve RHA コントロール サービスを保護する場合があります。詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」の「コントロール サービスの保護」を参照してください。

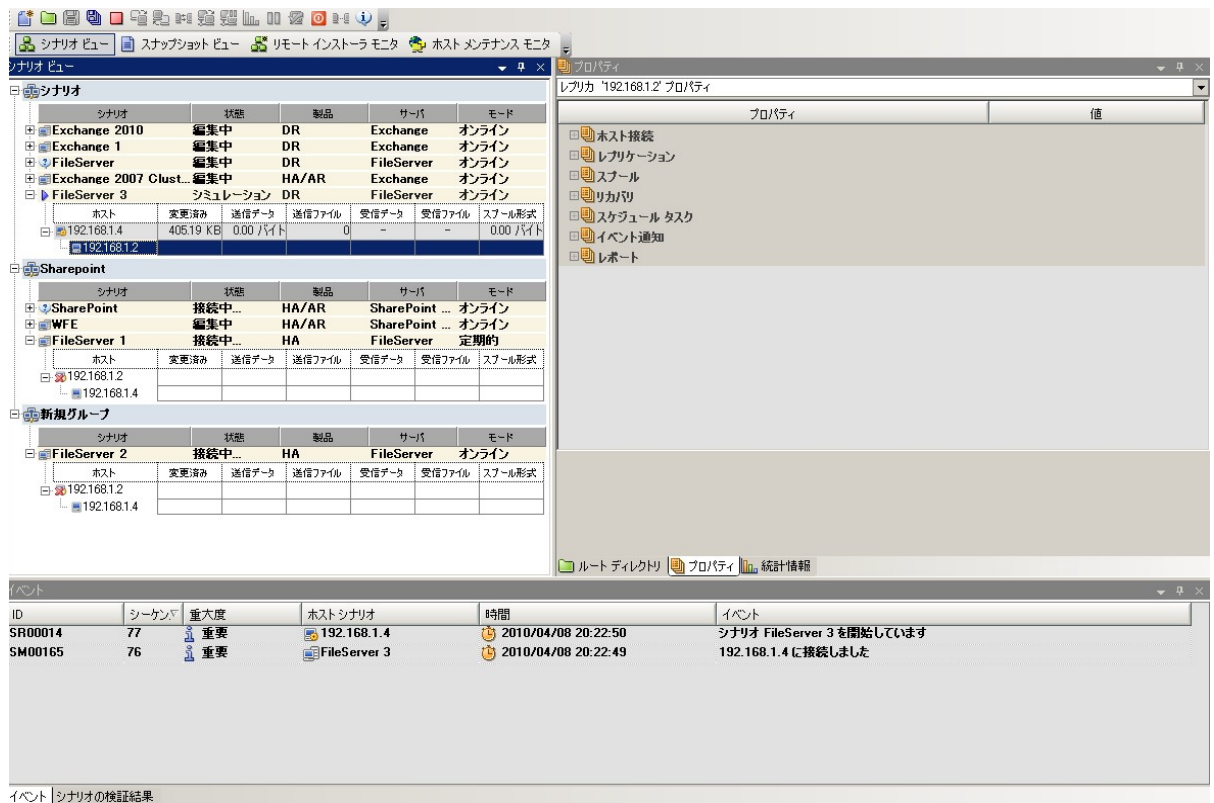
## エンジン

「エンジン」は、シナリオの開始前に実行しておく必要があるサービスです。エンジンは、シナリオに参加するサーバすべてにインストールされます。ここでのサーバとは、マスタ(ソース)およびレプリカ(ターゲット)の両方を指します。各エンジンは、レプリケーションおよびハイアベイラビリティの両シナリオにおいて、マスタとレプリカの両方の機能をサポートします。また、複数のシナリオに関係する事や、シナリオごとに異なる役割を果たすことができます。エンジンは、ホストごとにローカルにインストールするか、またはリモート インストーラを使用して一度に複数のホストにインストールすることができ、必要に応じてシナリオの作成時にインストールできます。

## 管理センター

「管理センター」は、以下の3つのコンポーネントで構成されます。いずれのコンポーネントも、手動でインストールする必要はありません。

- **概要ページ** - レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのシナリオのステータスに関する統計情報の概要です。
- **マネージャ** - シナリオの作成、設定、管理、およびモニタに使用するユーザーインターフェースです。この GUI アプリケーションは、概要ページの「シナリオ管理」リンクをクリックすると表示されます。



- **レポート センター** - すべての既存レポート情報、およびシナリオ別の使用可能レポートに関する情報を収集するユーザーインターフェースです。これらのレポートを保存する場所、および表示する期間や保存する期間をレポート センタで指定できます。

## PowerShell

マネージャの GUI を使用してレプリケーション プロセスを管理しない場合、代わりに PowerShell を使用することができます。PowerShell は、以前のバージョンで提供されていた CLI の機能を拡張し、より使いやすくしたものです。また、レプリケーションおよび HA の両方の処理がサポートされています。

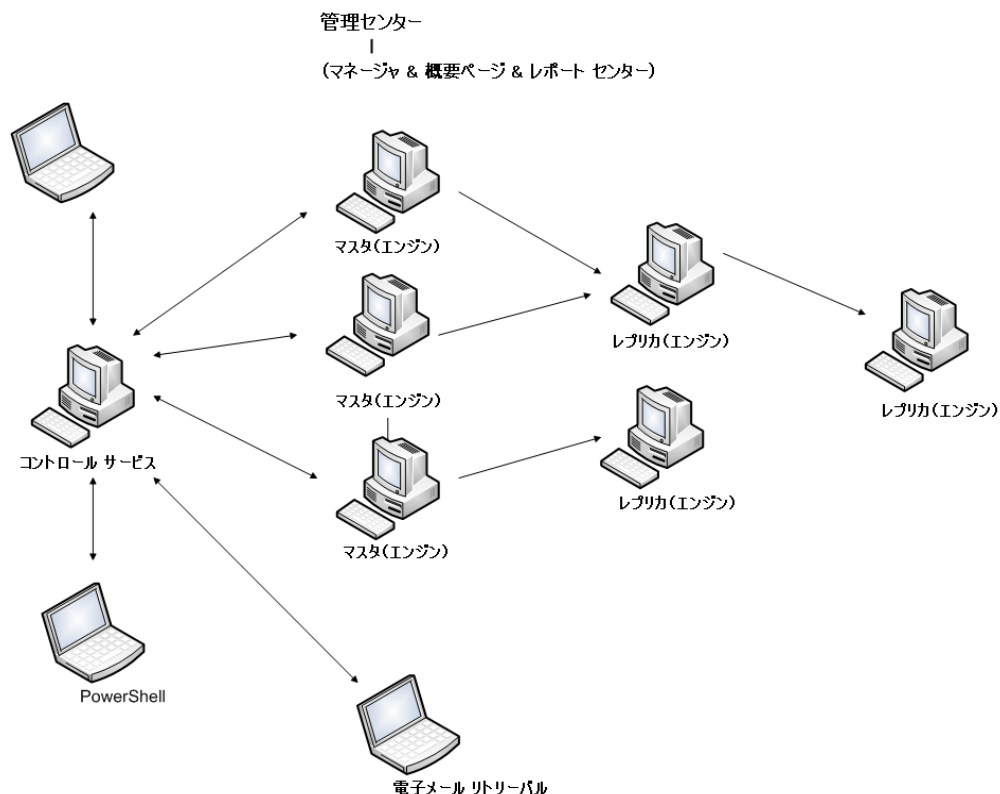
PowerShell は、レプリケーション シナリオの設定、レプリケーション プロセスの制御およびモニタを可能にするコマンド ライン シェルおよびスクリプト環境です。PowerShell で管理されるすべてのシナリオは、マネージャで管理されるシナリオと同様に表示され、機能します。これらのシナリオは同じデフォルトの保存場所である「INSTALL\_DIR/ws\_scenarios」に自動的に保存されます。

この PowerShell は標準の Windows PowerShell™ をベースにし、豊富な組み込みコマンド セットを備え、一貫性のあるインターフェースを提供します。PowerShell コンポーネントによって、スナップインと呼ばれるシナリオ関連コマンドが多数追加され、シナリオ管理がさらに容易になります。

## Arcserve RHA 展開

Arcserve RHA コンポーネントの展開方法は、企業のITネットワークの規模と、レプリケーションおよびハイ アベイラビリティの需要の程度によって異なります。ただし、レプリケーションおよびハイ アベイラビリティ環境を設計し、各種コンポーネントをWindows プラットフォーム上に展開する際には、所定のガイドラインに従う必要があります。以下のセクションでは、Arcserve RHA コンポーネントの効果的な展開方法について説明します。

以下の図に、Arcserve RHA コンポーネントの一般的な展開構成を示します。



### ■ Arcserve RHA コントロール サービス

コントロール サービスは、すべてのマスタ サーバとスイッチ オーバ先のレプリカサーバに接続する必要があります。コントロール サービスは、シナリオ内のスイッチオーバー レプリカでないサーバに直接接続されている必要はありません。

コントロール サービスは別のサーバにインストールすることをお勧めします。ハイ アベイラビリティ (HA) シナリオで作業している場合は、マスタ ホストとレプリカ ホストのいずれにもコントロール サービスをインストールしないでください。

コントロール サービスは、スタンドアロンのワークステーションにインストールできます。ただし、このワークステーションが無効またはオフラインの状態にある場合、シナリオのモニタまたは管理を行うことができないことに注意してください。

- **Arcserve RHA エンジン**

エンジンは、定義済みのシナリオに関係するそれぞれのマスタサーバとレプリカサーバにインストールする必要があります。

- **Arcserve RHA 管理センター**

このコンポーネントは、コントロールサービスにネットワーク接続されているすべてのワークステーションから、ブラウザで起動できます。

- **Arcserve RHA PowerShell**

このコンポーネントは、Windows PowerShell がインストールされていて、かつコントロールサービスへネットワーク接続されているどのワークステーションからでも起動できます。



---

## 第2章: Arcserve RHA コンポーネントの要件と環境設定

この章では、Arcserve RHA の各コンポーネントのソフトウェアと環境設定の要件について説明します。

注: サポートしているオペレーティングシステムの最新のリストについては、「リリースノート」を参照するか、Web サイト( [arcserve.com](http://arcserve.com)) にアクセスしてください。

**重要:** Arcserve Replication/High Availability コンポーネントのバージョンが異なる場合は、各コンポーネントのバージョンが次のルールに従っている必要があります:  
*RHA マネージャ GUI = RHA PowerShell >= コントロール サービス >= マスタ エンジン >= レプリカ エンジン。*

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">コントロール サービスの要件</a>	18
<a href="#">エンジンの要件</a>	19
<a href="#">管理センターの要件</a>	20
<a href="#">ClickOnce 要件</a>	22
<a href="#">PowerShell の要件</a>	24

## コントロール サービスの要件

サポートされているシステムの最新情報については、[互換性マトリクス](#)を参照してください。

まだお使いのマシンにインストールされていない場合は、インストールプロセス中にいくつかの必須アプリケーションが自動的にインストールされます。インストールされるアプリケーションは以下のとおりです。

- Microsoft .NET Framework 4.5 ( 4.0 以上 がまだインストールされていない場合 )

### ユーザ認証情報

- Arcserve RHA コントロール サービスを実行する Windows ユーザは、インストールディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。

## エンジンの要件

サポートされているシステムの最新情報については、[互換性マトリクス](#)を参照してください。

**重要：**Exchange シナリオを Windows 2008 または 2008 R2 で適切に動作させるためには、Microsoft .Net framework 4 以上をマスタ サーバとレプリカ サーバの両方にインストールする必要があります。詳細については、[KB 記事](#)を参照してください。

**注：**エンジンのインストール中にサービス ログオン情報を入力する場合、ローカル システム アカウントを使用するか、新規アカウントを定義できます。新規アカウントを定義する場合は、OS が提供する Computer Browser サービスのスタートアップ状態が有効化されており、サービスが実行中である必要があります。Windows Server 2003 では、Computer Browser サービスはデフォルトで有効になっていますが、Windows Server 2008 ではデフォルトで無効になっています。したがって、Windows Server 2008 にエンジンをインストールして新規システムアカウントを定義する場合は、インストールの開始前に Computer Browser サービスのスタートアップ状態を **[自動]**に変更し、サービスを起動しておく必要があります。さらに、Computer Browser サービスはファイルとプリンタ共有に依存するので、**[ネットワークと共有センター]**で **[ファイルとプリンタの共有]**をオンにしておく必要があります。Computer Browser サービスのスタートアップ状態を有効化する方法については、[リンク](#)を参照してください。

インストールの完了後は、Computer Browser サービスを停止し、スタートアップ状態を無効に戻してもかまいません。

## 管理センターの要件

### Web ブラウザ

- Internet Explorer バージョン 8、9、10、または 11

注：ブラウザのアクティブ スクリプトを有効にします。

- Google Chrome バージョン 76 以降
- Mozilla Firefox バージョン 69 以降

注：Chrome と Firefox では ClickOnce プラグインが必要です。詳細については、「[ClickOnce 要件](#)」を参照してください。

### ログオン アカウント

- 管理センタにログインするには、コントロール サービスがインストールされているローカル マシンの管理者 グループか、ACL ライセンスを使用している場合は対応する ACL ユーザ グループのメンバーである必要があります。

### HTTPS の考慮事項

コントロール サービスが https および自己署名証明書でインストールされている場合、ユーザは第三者のマシンからシナリオ管理 マネージャを開くことができません。この問題は、第三者のマシンのブラウザによって自己署名証明書が信頼されておらず、コントロール サービスへの信頼された接続を確立できないために発生します。

ユーザは、信頼された CA ( certificate authority、認証機関) によって発行された証明書を使用し、コントロール サービスを使用してインストールして、この問題を回避できます。

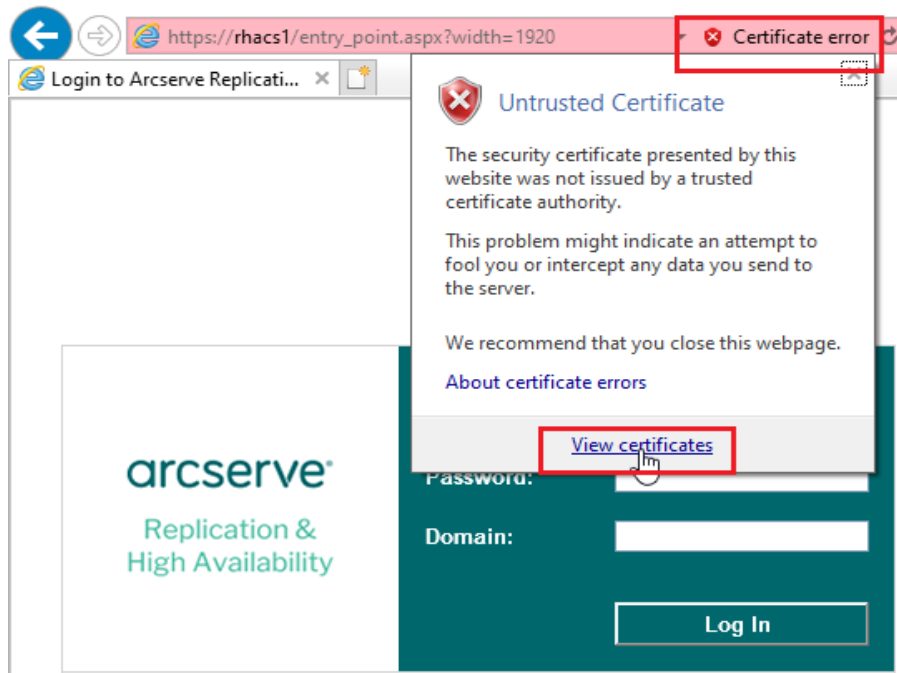
自己署名証明書による回避策としては、以下の手順に従います。

1. 第三者のマシンでブラウザを開き、コントロール サービスの URL を入力します。デフォルトの URL は `https://<cs-hostname>` です。

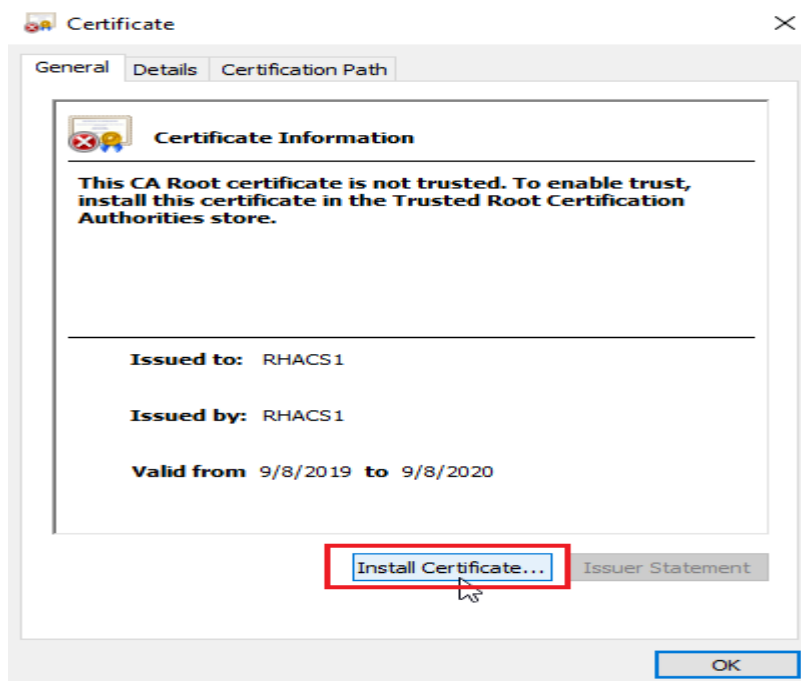
注：<cs-hostname> には FQDN ではなくホスト名のみを使用する必要があります。これは、自己署名証明書がドメイン環境にある場合、コントロール サービスのインストール中に、自己署名証明書が FQDN ではなく <cs-hostname> に対して生成および発行されるためです。

`https://<cs-hostname>` でコントロール サービスに移動できない場合、DNS が <cs-hostname> を正しく解決できることを確認してください。簡単な回避策としては、`c:\windows\system32\drivers\etc\hosts` ファイルに 1 行追加します。

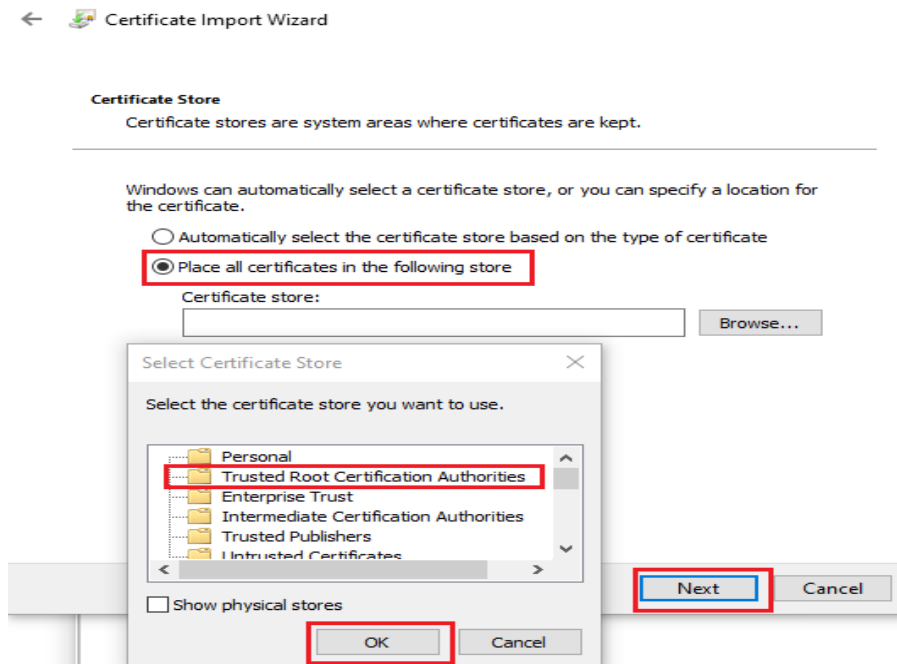
2. [ログイン] ページを開きます。[ログイン] ページでは、アドレス バーに証明書エラーが表示されます。



3. 第三者のマシンにコントロールサービスの証明書をインストールします。



4. [ローカルマシン]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
5. [証明書をすべて次のストアに展開する]を選択し、[証明書ストアの選択]ボックスから[信頼できるルート証明機関]を選択します。



6. [OK]、[次へ]の順にクリックします。
7. [完了]ボタンをクリックします。証明書のインストールが正常に完了したことを示すメッセージダイアログが表示されます。ダイアログボックスを閉じるには、[OK]を2回クリックします。
8. すべてのブラウザインスタンスとページを閉じ、コントロールサービスの [ログイン] ページを再度開きます。

証明書エラーアイコンが表示されなくなり、[ログイン] ページが正常に表示されます。

## ClickOnce 要件

Arcserve RHA 製品ラインでは、管理 UI コンポーネントの展開および実行のために ClickOnce テクノLOGYを使用しています。ClickOnce テクノLOGYの最高のエクスペリエンスとシームレスなサポートを得るには、Chrome や Firefox のブラウザ プラグインをインストールすることをお勧めします。

**注：** Arcserve は特定のプラグインを推奨するものではなく、以下のリンクは参考および例としてのみ提供しています。

- **Edge:** Microsoft Edge 87以降は ClickOnceが既定で有効になっています。これにより、企業がソフトウェアを展開する際の障害が低くなり、Microsoft Edge の従来のブラウザの動作との整合性が向上します。Microsoft Edge 87以降では ClickOnceEnabled ポリシーの "未構成" 状態は、以前の既定の状態「無効」と比較して、新しい既定の「有効」の ClickOnce 状態を反

映しています。信頼済みサイトの Edge ブラウザーを有効にするには、[Edge 関連のトラブルシューティング](#)セクションを参照してください。

古いバージョンの Edge で ClickOnce を有効にするには、次の手順に従います:

1. Edge ブラウザーで、次の URL を開きます:  
`edge://flags/#edge-click-once`
2. [ClickOnce Support] ドロップダウン リストから、[Enabled] を選択します。

ClickOnce が正常に有効化されました。

- **Chrome:** Chrome ブラウザを使用している場合は、以下のいずれかの ClickOnce プラグインを使用できます。

- ◆ **Meta4 ClickOnce Launcher:** <https://chrome.google.com/webstore/detail/meta4-clickonce-launcher/jkncabbipkgbconhaajbapbhokpbgkdc>
- ◆ **ClickOnce for Google Chrome:** <https://chrome.google.com/webstore/detail/clickonce-for-google-chro/kekahkplibinaibelipdcikofmedafmb>

- **Firefox:** Firefox ブラウザを使用している場合は、以下のいずれかの ClickOnce プラグインを使用できます。

- ◆ **Meta4 ClickOnce Launcher:** <https://addons.mozilla.org/en-US/firefox/addon/meta4clickoncelauncher/>
- ◆ **Breez ClickOnce:** <https://addons.mozilla.org/en-US/firefox/addon/breez-clickonce/>

## PowerShell の要件

サポートされているシステムの最新情報については、[互換性マトリクス](#)を参照してください。

.Net Framework

- Microsoft .NET Framework 4.0 以上

Windows PowerShell のインストールには .Net Framework が必要です。まだシステムにインストールしていない場合は、Microsoft ダウンロード センターからダウンロードしてインストールすることができます。



---

## 第3章: Arcserve のインストール、アップグレード、およびアンインストールArcserve RHA

このセクションでは、Arcserve RHA のインストールプロセスとアップグレードの実行方法について説明します。

---

<a href="#">Windows Installer の登録</a>	26
<a href="#">Arcserve RHA の初回インストール</a>	27
<a href="#">インストールに関する考慮事項</a>	28
<a href="#">コンポーネント インストール ワークフロー</a>	30
<a href="#">製品 のアップグレード</a>	31
<a href="#">Arcserve RHA コントロール サービスのインストール</a>	34
<a href="#">Arcserve RHA エンジンをインストールする方法</a>	43
<a href="#">管理センターおよびマネージャのインストールとオープン</a>	53
<a href="#">Arcserve RHA PowerShell のインストール</a>	54
<a href="#">Arcserve RHA のアンインストール</a>	55
<a href="#">Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンインストール</a>	56
<a href="#">CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング</a>	57
<a href="#">RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング</a>	58
<a href="#">リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング</a>	59

## Windows Installer の登録

Arcserve RHA をインストールするには、Microsoft Windows Installer サービスが正常にインストールされている必要があります。このサービスが停止または破損している場合は、特定のアプリケーションをインストールまたはアンインストールするときに以下のエラーが発生します。

Windows Installer エラー 1720/1722

このエラーを回避するには、以下の2通りの方法があります。

- 現在の Windows Installer サービスバージョンを再登録する
- 最新の Windows Installer サービスバージョンをダウンロードする

現在のバージョンを再登録するには、[スタート]- [ファイル名を指定して実行] をクリックし、以下のコマンドを入力します。

```
Msiexec/unregister
```

```
Msiexec/regserver
```

### 最新の Windows Installer サービスバージョンをインストールする方法

1. Microsoft の Web サイトにアクセスし、最新の Windows Installer をダウンロードします。
2. システム要件に応じて、Microsoft の手順に従ってサービスをインストールします。
3. インストールの完了後、コンピュータを再起動します。
4. サービスが実行されていることを確認します。[スタート]- [ファイル名を指定して実行] をクリックし、以下のコマンドを入力します。

```
services.msc
```

Vista が動作しているコンピュータの場合は、[検索の開始] ボックスにコマンドを入力します。

[サービス] 画面が表示されます。Windows Installer サービスを探し、ステータスが [開始] であることを確認します。必要な場合、スタートアップの種類を [自動] に変更し、サービスが実行されていない場合は手動で開始します。

Windows Installer のインストールと確認が完了したら、Arcserve RHA をインストールできます。

## Arcserve RHA の初回インストール

Arcserve RHA コンポーネントの初めてのインストールは非常に簡単です。インストールパッケージには、「Setup.exe」というインストールファイルが含まれています。インストールパッケージは、Arcserve RHA の Web サイトからダウンロードできます。この「Setup.exe」によって、インストール手順を示す標準のインストールウィザードが実行されます。

- このインストールでは、再起動やアプリケーションのシャットダウンは必要ありません。
- 必要な Windows Installer (INSTMSI.EXE) のレベルは 3.0 です。特に指定がない限り、すべてのサポートされているオペレーティングシステムには Windows Installer 3.0 が組み込みアプリケーションとして含まれています。

標準的な操作指示により、インストールが進行します。ユーザが決定する主な事項は、以下の各種コンポーネントのインストール先サーバのみです。

- すべてのシナリオのモニタと管理に使用されるコンピュータにコントロールサービスをインストールします。
- エンジン、マスタおよびレプリカサーバの両方にインストールします。
- Arcserve RHA コンポーネントをインストールするユーザは、ローカル管理者権限を持っているか、ローカル管理者グループのメンバーである必要があります。

注：デフォルトのインストールディレクトリは、

`INSTALLDIR\Program Files\CA\ARCServe RHA\component_names` です。

- インストールプロセス中に、Arcserve RHA サービスを実行するサービスアカウントを入力するように求めるメッセージが表示されます。
- HA (ハイアベイラビリティ) シナリオを実行する場合は、Arcserve RHA サービスを実行するアカウントには、ローカルシステムアカウント権限とは別に、追加の権限が必要な場合があります(詳細については、該当する「Arcserve HA Operations Guide」を参照してください)。
- Arcserve RHA コントロールサービスを実行する Windows ユーザアカウントには、インストールディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。
- Arcserve RHA エンジンのサービスログオンアカウントには、インストールディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。

## インストールに関する考慮事項

**重要:** Arcserve Replication/High Availability のダウンロード イメージは、標準的な CD (コンパクト ディスク) で利用可能なディスク空き容量を超えています。ダウンロード イメージをメディアにコピーするには、DVD またはフラッシュドライブを使用する必要があります。

以下の点を考慮してください。

- 画面の解像度が 1024×768 以上に設定されていることを確認します。これより解像度が低いと、画面の一部が表示されない可能性があります。
- 日本語環境では、[アプリケーションの起動] ダイアログ ボックスが英語で表示される場合があります。この問題を回避するには、.NET Framework 日本語 Language Pack を適用します。
- ファイアウォールに関する問題を避けるために、Arcserve Replication/High Availability エンジン Windows Server 2008 のマスタおよびレプリカ サーバへインストールするには、setup.exe をローカルで実行してください。その後、シナリオの作成時の [ホスト上の Arcserve RHA エンジンを検証] オプションを無効にします。これらのマシンにリモートで Arcserve Replication/High Availability エンジン Windows Server 2008 のファイアウォールで WMI トラフィックの通過を許可し、すべてのマスタおよびレプリカ マシンでポート 25000 を設定します。さらに、Hyper-V シナリオを作成する場合は、すべてのマスタ、レプリカ、および Hyper-V ゲスト マシン上で ICMP エコー応答メッセージを有効にします。この設定により、Arcserve RHA でゲスト オペレーティング システムに対して正常に ping を実行できるようになります。

**注:** セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインの使用をお勧めします。セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインを使用して Windows ファイアウォールを使用する方法の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

Arcserve Replication/High Availability エンジン Windows Server 2008 をリモートでインストールする前に、以下の方法で WMI トラフィックがファイアウォールを通過できるように設定します。

1. [コントロール パネル] から [セキュリティの設定] を開き、[Windows ファイアウォール] をクリックします。  
[Windows ファイアウォール] 設定 ダイアログ ボックスが開きます。
2. [設定の変更]、次に [例外] タブをクリックします。  
プログラムとポートのリストが表示されます。

3. [Windows Management Instrumentation (WMI)]を選択して WMI トラフィックのファイアウォールの通過を許可します。
4. [OK]をクリックして、ファイアウォール設定を終了します。
5. 通常の方法でエンジンをインストールします。

6. エンジンのインストールが終了したらマスタおよびレプリカそれぞれのマシンについて、Windows ファイアウォールの新規の受信の規則ウィザードで、セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインを有効にしてポート 25000 の設定を実行します。

TCP が選択されていることを確認し、ポート 25000 を [特定のローカルポート] リストに追加します。接続を許可し、プロファイル (たとえば「プライベート」) に設定を適宜適用します。

注: ポート 25000 がデフォルトの設定です。このポートは変更することができます。注: ウィザードの使用法の詳細については、該当する Microsoft の Web サイトを参照してください。

7. (Hyper-V シナリオの場合) Arcserve RHA から Hyper-V ゲストオペレーティングシステムに正常に ping を実行できるようにするため、すべてのマスタ、レプリカ、および Hyper-V ゲスト マシンで ICMP エコー応答メッセージを有効にします。

任意の IP アドレスに対する特定の ICMP エコー要求を有効にして接続を許可するカスタムルールを作成するには、新規の受信の規則ウィザードを使用してください。

注: 詳細については、該当する Microsoft の Web サイトを参照してください。

- ドメインコントローラ上への、ACL ベースの認証を使用した Arcserve Replication/High Availability コントロール サービスのインストールはサポートされていません。

## コンポーネント インストール ワークフロー

Arcserve RHA の基本コンポーネントのインストールは、以下の簡単な手順で構成されます。

1. コントロール サービスのインストール - スタンドアロン Microsoft サーバにコントロール サービスをインストールします。「Setup.exe」ファイルを使用して、Arcserve RHA [コントロール サービス] オプションを選択し、ウィザードの指示に従います。
2. マネージャのインストール - Arcserve RHA 概要 ページを開きます。このページの [シナリオ管理] Arcserve RHA リンクをクリックすると、システムによって マネージャがローカルコンピュータに自動的にインストールされます。
3. エンジンのインストール - マネージャを起動し、シナリオ作成 ウィザードを使用して、新規シナリオを作成します。シナリオの作成中に、シナリオに関連するマスタ ホストとレプリカ ホストにエンジンをインストールできます。また、「Setup.exe」ファイルを使用してローカルにエンジンをインストールしたり、リモート インストーラを使用して一度に多数のエンジンをインストールしたりすることもできます。

## 製品のアップグレード

Arcserve RHA は、多くの点で旧バージョンとは異なりますが、新規インストールと既存インストールの更新に大きな違いはありません。システムで以前のコンポーネントが自動的に検出され、MSI ウィザードによってアプリケーションのアップグレードに必要なすべてのタスクが実行されます。既存のシナリオをインポートし、Arcserve RHA Manager によってそれらを再利用できます。

**重要:** 前のリリースから r16.0 SP2 以降にアップグレードした場合、フルシステムシナリオを少なくとも 1 回再実行する必要があります。

**注:** 旧バージョンで作成されたシナリオは、デフォルトで `INSTALLDIR:\Program Files\CA\<ca> RHA\ws_scenarios` に保存されています。インポートプロセスの詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。

正常なアップグレードのために削除する必要があるコンポーネントは、以前の Arcserve RHA エンジンのみです。そのため、マスタサーバとレプリカサーバから Arcserve RHA をアンインストールする必要があります。「Setup.exe」ファイルを使用してこの手順を自動的に行うか、または新規インストールを開始する前に手動で行うことが可能です。

**注:** 以前のバージョンの GUI が含まれているマシンにコントロールサービスをインストールしようすると、以下の内容のメッセージが表示されます。

「以前のバージョンの Arcserve RHA が検出されました。新しいバージョンをインストールするために削除する必要はありません。」

[OK] をクリックすると、そのままインストール作業を続行します。

「setup.exe」ファイルを使用して以前のエンジンを削除するには、以下の手順に従います。

1. **Setup.exe** インストールファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストールウィザードが表示されます。
2. [インストール] オプションをクリックします。[コンポーネントのインストール] ページが表示されます。
3. [Arcserve RHA エンジンのインストール] オプションをクリックします。[Arcserve RHA エンジンのインストール] オプションをクリックします。  
[セットアップ言語の選択] ダイアログボックスが表示されます。
4. ドロップダウンリストからインストールウィザードで使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。  
プログレスバーが表示されます。
5. 初期プロセスが完了すると、[ようこそ] ページが表示されます。

6. **「次へ」**をクリックします。システムによって、古いエンジンがサーバに存在することが検出され、**「前バージョンについての情報」**ページが表示されます。
7. 以前のエンジンを自動的に削除するには、**「次へ」**をクリックします。プログレスバーが表示されます。
8. 削除プロセスが完了すると、**「使用許諾契約」**ページが表示されます。
9. 「[Arcserve RHA エンジンのインストール](#)」に記載されているように、ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

**注：**既存のブックマークおよびリwind ポイントはアップグレード後にすべて失われます。



## 段階的なアップグレード

Arcserve RHA のこのリリースは旧バージョンとの後方互換性を保持しているため、段階的にアップグレードできます。

混合環境で Arcserve RHA を実行するには、以下のことに注意してください。

- 最初にコントロール サービスをアップグレードします。
- マスタ サーバとレプリカ サーバをすぐにアップグレードしない場合は、マスタをアップグレードしてからレプリカをアップグレードします。両方のサーバがアップグレードされるまで、バックワード レプリケーションはサポートされていません。
- ハイ アベイラビリティ シナリオの場合は、マスタおよびレプリカ サーバをすぐにアップグレードする必要があります。
- 旧バージョンのエンジンが実行されている場合は新しいファイル サーバまたはアプリケーション シナリオを作成できませんが、新しい CD シナリオは作成できます。

## Arcserve RHA コントロール サービスのインストール

このセクションでは、Arcserve RHA コントロール サービスのインストール方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [コントロール サービスのインストールに関する考慮事項](#)
- [標準処理用のコントロール サービスのインストール](#)
- [コントロール サービス役割切り替え用の2つのコントロール サービスのインストール](#)
- [CLIを使用したコントロール サービスのインストール](#)

## コントロール サービスのインストールに関する考慮事項

コントロール サービス自体で実行する手順のタイプに従って、1 つ、または 2 つのコントロール サービスをインストールする必要があります。

- Arcserve RHA標準的な [レプリケーションおよびハイ アベイラビリティ処理の場合、コントロール サービスを 1 つだけインストールします。](#) このコントロール サービスは、すべての Arcserve RHA 操作の単一制御ポイントとして機能します。2 つのコントロール サービス間でスイッチオーバーを実行せずにコントロール サービスデータをレプリケートする場合は、インストールするコントロール サービスは 1 つでかまいません。

注：コントロール サービスデータをレプリケートするには、すべての Arcserve RHA コンポーネントのインストールが完了した後に、マネージャを使用してレプリケーションコントロール サービスシナリオを作成する必要があります。

- コントロール サービスデータをレプリケートし、元のコントロール サービスとスタンバイのコントロール サービス間で役割を切り替える場合は、[2 つのコントロール サービスをインストールする](#)必要があります。インストールするコントロール サービスの 1 つがアクティブなコントロール サービスとして機能し、もう 1 つがスタンバイコントロール サービスとして機能します。コントロール サービスは一度に 1 つしかインストールされないため、2 つのコントロール サービスをインストールする場合は、インストール処理は 2 回実行する必要があります。

### Notes:

- ◆ コントロール サービスに HA ソリューションを適用するには、すべての Arcserve RHA コンポーネントのインストールが完了した後に、マネージャを使用して HA コントロール サービスシナリオを作成する必要があります。
- ◆ コントロール サービスに HA ソリューションを適用する場合は、HA ライセンスは必要ありません。ただし、コントロール サービスシナリオを作成する前に、Arcserve RHA を登録する必要があります。
- ◆ レプリケーションおよび HA コントロール サービスシナリオの作成の詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。

## 標準処理用のコントロール サービスのインストール

### Arcserve RHA コントロール サービスをインストールする方法

1. **Setup.exe** インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
2. **[インストール]** オプションをクリックします。 **[コンポーネントのインストール]** ページが表示されます。
3. **[Arcserve RHA コントロール サービスのインストール]** オプションをクリックします。 **[セットアップ言語の選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 **[OK]** をクリックします。

プログレス バーが表示されます。初期プロセスが完了すると、 **[ようこそ]** ページが表示されます。

5. **[次へ]** をクリックします。 **[使用許諾契約]** ページが表示されます。
6. **[同意する]** チェック ボックスをオンにして、 **[次へ]** をクリックします。 **[ユーザ情報]** ページが表示されます。
7. 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。続いて、 **[次へ]** をクリックします。 **[インストール先フォルダ]** ページが表示されます。
8. **[変更]** ボタンをクリックしてコントロール サービスのインストール場所を選択するか、デフォルトの場所のままにします。続いて、 **[次へ]** をクリックします。

**注:** デフォルトのインストール ディレクトリは `\Program Files\CA\Arcserve\component_name` です。すべての実行可能ファイル、DLL、および環境設定ファイルは `INSTALLDIR` 内にあります。

**[SSL 設定]** ページが表示されます。

9. **[SSL 設定]** ページでは、SSL 証明書を使用して、コントロール サービスとのセキュアな通信を確立できます。

IT 環境でソフトウェアがローカル ネットワークに展開されており、セキュリティ上の懸念がない場合は、 **[SSL 構成を使用]** チェック ボックスをオフしてもかまいません。オフにすると、コントロール サービスとの通信は HTTP を介して行われます。

SSL 設定を使用する場合は、 **[SSL 設定を使用]** チェック ボックスをオンにしてください。この場合は、コントロール サービスとの通信は HTTPS を介して行われます。このオプションをオンにした場合は、 **[SSL ポート]** ボックスにポート番号を入力して、使用可能ないずれかの証明書タイプのボックスに証明書ファイルを入力する必要があります。

## Notes:

- ◆ **[SSL 設定]**オプションを選択すると、デフォルトでは **[SSL ポート]**の番号は 443 になります。ただし、このポート番号がすでに使用されている場合は、別のポートを使用してください。
- ◆ **[SSL 設定]**オプションを選択する場合は、概要ページを開くときに、コントロール サービス マシンの( IP アドレスではなく) ホスト名を使用する必要があります。次のように、コントロール サービスのホスト名とポート番号を入力します。  
https://ホスト名:ポート番号/start\_page.aspx
- ◆ この .CER および .PEX 証明書は、サードパーティの証明機関により提供されるインターネット セキュリティファイルです。これらの証明書は Web サーバにインストールされ、そのサーバによりホストされる特定の Web サイトの有効性を認証します。これらの証明書は、(「https://」で始まる) 安全なサイトにアクセスする際、ブラウザ ウィンドウ端近くのロックアイコンで示されます。**[SSL 環境設定]**ページで、.CER および .PEX 証明書のパスと名前を入力すると、Arcserve RHA コントロール サービス - InstallShield ウィザードは証明書をインストールし、SSL 証明書のメタ情報を Web サーバに追加します。このようなメタ情報は、メタストアの HTTP API によって維持されており、HTTPS セッションにおいて証明書を交換するため、証明書を検出するのに使用されます。
- ◆ 現在承認された SSL 証明書がない場合は、**自己署名証明書**を使用できます。**[自己署名証明書]**オプションのチェックボックスをオンにした後は、リモート マシンから概要ページにアクセスする際に証明書をインストールする必要があります。詳細については、「[SSL 自己署名証明書のインストール](#)」を参照してください。

10. **[次へ]**をクリックします。**[サービス ログオン情報]**ページが表示されます。
11. 選択して、必要な情報を入力します。ローカルシステム アカウントの権限を使用するか、ユーザ名とパスワードを「ドメイン/ユーザ名」の形式で指定することができます。

注: 複数のマシンの管理者権限を持つドメイン アカウントでコントロール サービスを実行すると、エンジンをリモートで展開して接続できます。このとき、個々のサーバで認証は求められません。

12. **[次へ]**をクリックします。**[コントロール サービスの役割]**ページが表示されます。

注: [2つのコントロール サービスをインストールする目的が、役割の切り替えのみである](#)場合は、**[コントロール サービスを許可する]**チェックボックスをオンにして、現在インストールしているコントロール サービスを**アクティブ**と**スタンバイ**のどちらのコントロール サービスとするのか定義します。

13. コントロール サービスの通常 インストールを行う場合は、**次へ**をクリックします。  
**プログラムのインストール準備完了** ページが表示されます。  
注: **戻る** ボタンをクリックして前のページに戻り、環境設定を変更します。
14. **インストール** ボタンをクリックして、コントロール サービスをインストールします。**コントロール サービスのインストール** ページが表示されます。
15. インストールが完了したら、**次へ**をクリックします。次のページが表示されます。
16. ウィザードを終了するには、**終了** をクリックしてください。これで、指定した場所に、コントロール サービスがインストールされました。

## コントロール サービス役割切り替え用の 2 つのコントロール サービスのインストール

役割切り替えを実行するために 2 つのコントロール サービスをインストールする方法は、標準インストールと基本的には同じです。主な相違点は 2 つのみです。

- 2 つのコントロール サービスをインストールするため、インストール処理を 2 回繰り返す必要があります。
- インストールしているコントロール サービスをアクティブ コントロール サービスとして機能させるのか、スタンバイ コントロール サービスとして機能させるのかを、インストール中に定義する必要があります。

### 役割切り替え用に <carha> コントロール サービスをインストールする方法

1. **Setup.exe** インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
2. **[インストール]** オプションをクリックします。 **[コンポーネントのインストール]** ページが表示されます。
3. **[コントロール サービスのインストール]** オプションをクリックします。 **[セットアップ言語の選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 **[OK]** をクリックします。

プログレス バーが表示されます。初期プロセスが完了すると、 **[ようこそ]** ページが表示されます。

5. **[次へ]** をクリックします。 **[使用許諾契約]** ページが表示されます。
6. **[同意する]** チェック ボックスをオンにして、 **[次へ]** をクリックします。 **[ユーザ情報]** ページが表示されます。
7. 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。続いて、 **[次へ]** をクリックします。 **[インストール先フォルダ]** ページが表示されます。
8. **[変更]** ボタンをクリックしてコントロール サービスのインストール場所を選択するか、デフォルトの場所のままにします。続いて、 **[次へ]** をクリックします。

**注：** デフォルトのインストール ディレクトリ ( **INSTALLDIR** ) は `\Program Files\CA\ArcserveRHA\component_name` です。すべての実行可能ファイル、DLL、および環境設定ファイルは **INSTALLDIR** 内にあります。

**[SSL 設定]** ページが表示されます。

9. **[SSL 設定]** ページでは、SSL 証明書を使用して、コントロール サービスとのセキュアな通信を確立できます。

- ◆ [SSL 設定] オプションの使用については、「[標準処理でのコントロールサービスのインストール](#)」を参照してください。
- ◆ SSL 自己署名証明書の使用については、「[SSL 自己署名証明書のインストール](#)」を参照してください。

10. 通信環境設定を選択してから、[次へ]をクリックします。[サービス ログオン情報] ページが表示されます。

選択して、必要な情報を入力します。ローカルシステムアカウントの権限を使用するか、ユーザ名とパスワードを「ドメイン/ユーザ名」の形式で指定することができます。

注：複数のマシンの管理者権限を持つドメイン アカウントでコントロール サービスを実行すると、エンジンをリモートで展開して接続できます。このとき、個々のサーバで認証は求められません。

11. [次へ]をクリックします。[コントロール サービスの役割] ページが表示されます。

役割切り替えを実行するためにコントロール サービスをインストールするには、[コントロール サービスを許可する] チェック ボックスをオンにします。次に、現在インストールしているコントロール サービスをアクティブまたはスタンバイのどちらのコントロール サービスとして機能させるのか定義します。

12. [次へ]をクリックします。[プログラムのインストール準備完了] ページが表示されます。

注：[戻る] ボタンをクリックして前のページに戻り、環境設定を変更します。

13. [インストール] ボタンをクリックして、コントロール サービスをインストールします。Arcserve RHA [Arcserve RHA コントロール サービスのインストール] ページが表示され、インストールの進捗状況が表示されます。

14. インストールが完了したら、[次へ]をクリックします。[InstallShield ウィザードの完了] ページが表示されます。

15. ウィザードを終了するには、[終了] をクリックしてください。これで、指定した場所に、コントロール サービスがインストールされました。

16. このインストール処理を 2 つ目のコントロール サービス(アクティブ、またはスタンバイ) に対して繰り返します。

17. 両方のコントロール サービスのインストール先サーバに [Arcserve RHA エンジン](#)をインストールします。



## CLI を使用したコントロール サービスのインストール

CLI ( コマンド ライン インターフェース) を使用して Arcserve RHA コントロール サービスをインストールできます。

### CLI を使用して Arcserve RHA コントロール サービスをインストールする方法

- CLI を開き、以下のコマンドを入力します。

```
RHAManager.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN="[Domain/UserName]"  
XOPASSWORD="[Password]" XOLANG="[Language]"
```

### パラメータ

#### RHAManager.exe

Arcserve RHA コントロール サービスのセットアップ ファイル

#### S、V、QN

サイレント インストール パラメータ

#### ドメイン/ユーザ名、パスワード

「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているように、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な情報を入力します。ログオン アカウントの情報を入力しない場合、デフォルトはローカルシステムです。

### 言語

以下の言語コードのいずれかを使用して Arcserve RHA の言語を選択します。

- ◆ 1033 英語
- ◆ 1036 フランス語
- ◆ 1041 日本語
- ◆ 2052 - 中国語 ( 簡体字 )
- ◆ 1028 中国語 ( 繁体字 )
- ◆ 1031 - ドイツ語
- ◆ 1034 - スペイン語
- ◆ 1040 イタリア語
- ◆ 1046 - ポルトガル語 ( ブラジル )

**注:** コントロール サービスのサイレント インストールに SSL は使用できません。

### 例: CLI を使用したコントロール サービスのインストール

```
RHAManager.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN="domain/administrator"  
XOPASSWORD="abcd" XOLANG="1033"
```

注: "LOCALACCOUNT=No" の値 "No" は大文字小文字が区別されます。

## Arcserve RHA エンジンインストールする方法

このセクションでは、Arcserve RHA エンジンのインストール方法について説明します。

以下は、Arcserve RHA エンジンインストールする3つの方法です。

- Setup.exe ファイルの使用 - エンジンを一度に1つのホストにインストールします。このインストール方法では、以前のバージョンのエンジンが自動的に検出され、新規エンジンのインストール中に古いエンジンを削除することができます。このインストール手順は、「Arcserve RHA コントロールサービスのインストール」で説明したコントロールサービスのインストール手順と同様です。
- シナリオ作成ウィザードの使用 - 新規シナリオの作成中に、マスタホストとレプリカホストにエンジンをリモートインストールします。
- リモートインストーラの使用 - リモートインストーラウィザードを使用して、一度に1つ以上のホストにエンジンをリモートインストールします。

### Windows Server 2008 R2 サーバコアへの Arcserve RHA エンジンのインストール

Windows 2008 R2 サーバコアに RHA エンジンインストールする前に、ieproxy.dll を登録し、Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージをインストールします。

以下の手順に従います。

1. Windows Server 2008 R2 (サーバコアインストールなし) 上の %programfiles%\Internet Explorer フォルダに移動します。
2. ieproxy.dll ファイルを見つけて、サーバコアの以下の場所にそれをコピーします。  
%systemRoot%\system32
3. 登録するには、コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。  
regsvr32 %systemRoot%\system32\ieproxy.dll
4. Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ( x64) をインストールします。再頒布可能パッケージは、www.microsoft.com からダウンロードしてください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [インストールファイル Setup.exe を使用したエンジンのインストール](#)
- [シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストール](#)
- [リモートインストーラを使用したエンジンのインストール](#)
- [CLI を使用したエンジンのインストール](#)

## インストールファイル Setup.exe を使用したエンジンのインストール

### Setup.exe ファイルを使用した Arcserve RHA エンジンのインストール方法

1. Setup.exe インストールファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストールウィザードが表示されます。

**重要:** Windows 2003 および 2008 では、インストール中にデジタル署名エラーが発生し、インストールがロールバックする可能性があります。このエラーを回避するには、Windows ルート証明書を更新する必要があります。[Microsoft](#) の Web サイトから更新をダウンロードしてインストールします。

2. [インストール]オプションをクリックします。[コンポーネントのインストール]ページが表示されます。
3. [Arcserve RHA エンジンのインストール]オプションをクリックします。[セットアップ言語の選択]ダイアログボックスが表示されます。
4. ドロップダウンリストからインストールウィザードで使用する言語を選択し、[OK]をクリックします。

プログレスバーが表示されます。初期プロセスが完了すると、[ようこそ]ページが表示されます。

5. [次へ]をクリックします。[使用許諾契約]ページが表示されます。

**注:** 以前のバージョンのエンジンがサーバに存在する場合は、[前バージョンについての情報]ページが表示され、エンジンをアンインストールするためのオプションが提供されます。

6. [使用許諾契約]ページで、[同意する]チェックボックスをオンにして、[次へ]をクリックします。[インストール先フォルダ]ページが表示されます。

7. 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。続いて、[次へ]をクリックします。[カスタムセットアップ]ページが表示されます。

**注:** [エンジン]オプションが選択されていると、[スペース]ボタンが使用できます。このボタンをクリックすると、選択した機能のインストールに必要なディスク容量を表示できます。

8. [次へ]をクリックします。[サービスログオン情報]ページが表示されます。
9. 「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているように、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な情報を入力します。

- ファイルサーバでは、以下のガイドラインを使用してください。

- ◆ レプリケーション シナリオの場合 - ローカル システム アカウント の利用 でかまいません。
  - ◆ クラスタ( レプリケーション シナリオ) の場合 - クラスタ サービスと同じアカウント またはこれと同等 の権限 で実行 する必要があります。
  - ◆ ハイ アベイラビリティ シナリオ( クラスタを含む) の場合 -
    - ドメイン管理 者 権限を持つアカウントで実行 する必要があります。  
Domain Admins グループがビルト インドメイン ローカルグループ管理 者のメンバでない場合は、そのメンバであるアカウントを使用 する必要があります。
    - また、アカウントは、ローカル マシンの Administrators グループのメンバ である必要があります。Domain Admins グループがメンバでない場合は、アカウントを手 動で追加します。ワークグループ内 のサーバの場合は、ローカル システム アカウントを使用 します。
10. **次へ**をクリックします。 **インストール準備完了** ページが表示 されます。
  11. **インストール**をクリックします。 **Arcserve RHA エンジンのインストール** ペー ジが表示 されます。
  12. インストールが完了したら、 **次へ**をクリックします。 **InstallShield ウィザード の完了** ページが表示 されます。
  13. **終了** ボタンをクリックしてインストールを終了 します。

## シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストール

### シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストール

1. Arcserve RHA マネージャで、**[シナリオ]**メニューから **[新規]**オプションを選択します。  
シナリオ作成ウィザードが表示されます。
2. 以下のように、必要なシナリオオプションを選択します。
  - ◆ **[新規シナリオの作成]**オプションをオンにします。
  - ◆ **[グループ]**ドロップダウンリストから、新規シナリオを割り当てるグループを選択するか、または新規グループの名前を入力します。
3. **[次へ]**をクリックします。**[サーバおよび製品タイプの選択]**ページが表示されます。
4. 以下のように、必要なシナリオオプションを選択します。
  - ◆ **[サーバタイプの選択]**リストから、シナリオで使用するサーバのタイプを選択します。
  - ◆ **[製品タイプの選択]**で、ライセンスに応じてレプリケーションまたはハイアベイラビリティシナリオを選択します。
  - ◆ 注: **[レプリカ上のタスク]**オプションの使用方法については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。
5. **[次へ]**をクリックします。**[マスタおよびレプリカホスト]**ページが表示されます。
6. 以下の情報を入力します。
  - ◆ **[シナリオ名]** - デフォルトのシナリオ名を使用するか、シナリオの新しい名前を入力します。
  - ◆ **[マスタホスト名/IP]**および **[レプリカホスト名/IP]** - マスタホストとレプリカホストの名前またはIPを入力するか、**[参照]**ボタンを使用して検索します。  
注: HA シナリオの作成時には、(ホスト名ではなく)ホストのIPアドレスを入力することをお勧めします。
  - ◆ **[ホスト検証のためのユーザ認証情報]** - エンジンインストールするリモートホストにアクセスできるようにするユーザ認証情報を入力します。
7. **[次へ]**をクリックします。**[エンジン検証]**ページが表示されます。

注: **[ホスト検証のためのユーザ認証情報]**ダイアログボックスが表示されたら、エンジンをインストールするリモートホストにアクセスできるようにするユーザ認証情報を入力します。

8. システムで、前のページで選択したマスタ ホストとレプリカ ホストの接続が確認されます。接続が確認されたら、エンジンが各 ホストにインストールされているかどうかチェックされます。

注：指定されたホストへの接続を確立できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーが報告された場合、続行するにはそれらを解決する必要があります。

[サーバのステータス]列を使用して、選択したホストにエンジンがインストールされているかどうかを確認します。

- ◆ すべてのホストにインストール済みバージョンがある場合は、次のページに進むことができます。
- ◆ いずれかのホストの [現行バージョン]列に [インストールされていません]と表示されている場合は、これらのホストにエンジンをインストールする必要があります。

注：ホストの一方または両方にエンジンがインストールされていない場合、[次へ]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

[いいえ]をクリックして、[エンジン検証]ページに戻り、エンジンをインストールします。

9. [エンジン検証]ページで [インストール]ボタンをクリックして、選択したホストにエンジンをリモートでインストールします。

注：エンジンは一度に両方のホストにインストールできます。この操作を実行するには、2つのホストのチェックボックスをオンにしてから、[インストール]ボタンをクリックします。

10. インストールが完了するまで待ちます。エンジンのバージョン番号が [現在のバージョン]列に表示されます。
11. [次へ]をクリックします。[マスタルート ディレクトリ]が表示されます。

ウィザードの指示に従って、シナリオの作成を完了します(新規シナリオの作成の詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください)。

## リモート インストーラを使用したエンジンのインストール

リモート インストールウィザードを使用すると、任意の数のサーバ、またはクラスターノードにエンジンを一度に展開できます。

エンジンのインストール対象となっているマシンでファイアウォールが実行されている場合は、Windows ファイアウォールの例外リストで WMI ( Windows Management Instrumentation) を例外として定義し、エンジンを有効にする必要があります。Windows 2003 または Windows XP が実行されている場合は、Microsoft MSDN の Web サイトにアクセスし、「Connecting Through Windows Firewall」というドキュメントを検索してください。

**注：**一部のセットアップでは、リモート WMI リクエストは無効です。これにより、リモート インストーラを使用した Arcserve RHA エンジンの展開時に、検証に失敗します。この問題を解決するには、「[リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

### リモート インストーラを使用してエンジンをインストールする方法

1. Arcserve RHA マネージャで、**[ツール]**メニューから **[リモート インストーラの起動]**を選択します。

**[リモート インストーラビュー]**が開き、リモート インストールウィザードの **[ホスト選択]**ページが表示されます。

#### Notes:

- ◆ 現在 マネージャにシナリオがある場合は、これらのシナリオに含まれるホストが **[選択したホスト]**ペインに表示されます。このペインでは、インストールされているエンジンのバージョンを簡単に更新できます。
  - ◆ リモート インストーラを使用しているときに他のマネージャ機能にアクセスする場合は、リモート インストールウィザードを最小化し、後で使用できます。このウィザードはリモート インストーラ モニタビューにバインドされています。ビューを切り替えると、ウィザードは自動的に最小化されます。
2. **[ホストの選択]**ページで、エンジンをインストールするホストを選択します。ホストは自動的に選択することも、手動で選択することもできます。
    - ◆ ドメイン内の既存のホストを自動的に検出するには、**[ホスト ディスカバリの開始]**ボタンをクリックします。検出されたホストは、左側の **[検出されたホスト]**ペインに表示されます。ホストを選択するには、そのホストをダブルクリックします。ホストが、右側の **[選択したホスト]**ペインに表示されます。
    - ◆ ホストを手動で選択するには、**[ホスト名/IP アドレス]**ボックスにホスト名または IP アドレスを入力し、**[追加]**ボタンをクリックします。入力したホストが、**[選択したホスト]**ペインに表示されます。



注：クラスタを使用する場合、すべての物理ノードにエンジンをインストールし、クラスタ名の代わりに物理ノードを選択する必要があります。

- 必要に応じて繰り返し選択します。エンジンは、**選択したホスト** ペインに表示されているサーバのみにインストールされます。

注：**選択したホスト** ペインからホストを削除するには、ホストを選択して、**削除** ボタンをクリックします。

- ホストの選択に問題がない場合は、**次へ** をクリックします。**ユーザ認証情報** ページが表示されます。
- 各ターゲット ホスト へのアクセスに使用するユーザ アカウントを設定します。選択されているすべてのホストでローカル管理者の認証情報が必要です。

**Notes:**

- ◆ リモート ホスト へのログインに使用した**ユーザ認証情報**と完全に同じ情報を入力する必要があります。
- ◆ 選択したホストにドメイン値を渡す必要がない場合は、**ドメイン** フィールドは空白のままにし、ユーザ名の前に「\」を入力します。
- ◆ 管理者権限のないドメイン アカウントまたは管理者以外のローカルアカウントを使用してログインしている場合、デフォルト設定は **現行ユーザ** から **以下のユーザ** に変わります。

- 次へ** をクリックします。**インストール前の検証** ページが表示されます。

リモート インストーラによって、前のページで選択したサーバが存在するかどうか、およびサーバの接続と環境設定が自動的にチェックされます。検証プロセスが完了すると、結果が表示されます。

注：サーバのステータスがエラーと報告されたが、そのサーバが存在し、正しく接続されていることを確認した場合は、そのサーバを選択して、**再検証** ボタンをクリックします。リモート インストーラによって検証プロセスが繰り返されます。

- すべてのサーバのステータスが **インストールされていません** になったら、**次へ** をクリックします。

注：古いバージョンのエンジンが **インストール済み** として報告される場合は、**アンインストール** ボタンをクリックしてそのエンジンをアンインストールできます。アンインストールプロセスが完了したら、**次へ** をクリックします。

**インストール設定** ページが表示されます。

- サービス ログオン情報** セクションで、アカウント タイプを選択してサービス ログオン情報を設定します。

### ローカルシステム アカウント

Windows ローカルシステム アカウントを使用するように指定します。

現行ユーザ

ログインに使用したユーザアカウントを使用するように指定します。

### このアカウント

ユーザ名、パスワード、ドメインを入力して、別のユーザを使用するように指定します。

**注：**既存のエンジンをアップグレードし、そのエンジンのログオンアカウント情報を Arcserve RHA で使用するには、**既存のインストールのサービス ログオンアカウントを使用** ]チェックボックスをオンにします。

9. **[次へ]**をクリックします。**[インストール準備完了]**ページが表示されます。
10. 必要なすべてのサーバが一覧表示されていることを確認します。次に、**[インストール]**ボタンをクリックして、これらのサーバにエンジンをインストールします。確認メッセージが表示されます。
11. **[[はい]**ボタンをクリックして、エンジンをインストールします。**[リモート インストーラ]**のステータス ペインが表示されます。**[サーバのステータス]**に **[インストール済み]**と表示されるまで待ちます。
12. **[リモート インストーラ]**のステータス ペインを閉じます。**[リモート インストーラ ビュー]**で、インストールのステータスが **[インストール完了]**として表示されます。

これで、選択したすべてのサーバまたはクラスタ ノードにエンジンがインストールされました。

## CLI を使用したエンジンのインストール

CLI ( コマンド ライン インターフェース) を使用して、Arcserve RHA エンジンを実マスターサーバとレプリカサーバにインストールできます。

### CLI を使用して Arcserve RHA エンジンを実インストールする方法

ローカルシステムサービスの登録は、CLI を開き、以下のコマンドを実行します。

- ドメイン認証情報なし

```
RHAEngine.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN=[Domain/UserName]" XOPASSWORD="[Password]" XOPORT="[Port]" XOLANG="[Language]"
```

- ドメイン認証情報あり

```
E:\Install>RHAEngine64.exe /S "/v/qn XOLOGIN="domain\Administrator" XOPASSWORD="xxxxx" XOPORT="25000" XOLANG="1033" LOCALACCOUNT=No ServiceUserName="domain\Administrator" ServicePassword="*****"
```

### パラメータ

#### RHAEngine.exe

Arcserve RHA エンジンのセットアップファイル

#### S、V、QN

サイレント インストールパラメータ

#### ドメイン/ユーザ名、パスワード

「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているように、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な情報を入力します。ログオンアカウントの情報を入力しない場合、デフォルトはローカルシステムです。

#### ポート

ポート番号を入力します。デフォルトは 25000 です。

#### 言語

以下の言語コードのいずれかを使用して言語を選択します。

- 1033 英語
- 1036 フランス語
- 1041 日本語
- 2052 - 中国語(簡体字)
- 1028 中国語(繁体字)

- 1031 - ドイツ語
- 1034 - スペイン語
- 1040 イタリア語
- 1046 - ポルトガル語 ( ブラジル)

**例: CLI を使用したエンジンのインストール**

```
RHAEEngine.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN="domaun/administrator"  
XOPASSWORD="abcd" XOPORT="25000" XOLANG="1033"
```

**注:** "LOCALACCOUNT=No" の値 "No" は大文字小文字が区別されます。

## 管理センターおよびマネージャのインストールとオープン

管理センターとマネージャでは、コンポーネントやアプリケーションが事前にインストールされている必要はありません。これは、ワンクリックのインストール手順を基にしています。ネットワーク接続が存在し、Web ブラウザがインストールされているどのワークステーションからでも実行できます。

### マネージャをインストールする方法

1. Internet Explorer を起動します。次のように、**[アドレス]**ボックスにコントロール サービスのホスト名/IP アドレスとポート番号を入力します。「http://ホスト名:ポート番号/start\_page.aspx」

**注:** コントロールサービスのインストール中に **[SSL 設定]** オプションを選択した場合は、概要ページを開くときに、コントロールサービスのマシンの( IP アドレスではなく) ホスト名を使用する必要があります。次のように、コントロールサービスのホスト名とポート番号を入力します。https://ホスト名:ポート番号/start\_page.aspx

**[ログイン]** ダイアログ ボックスが表示されます。

2. ユーザ名、パスワード、およびドメイン名を入力し、**[ログイン]** をクリックします。
3. 概要ページが表示されます。
4. **[クイックスタート]** ツールバーで、**[シナリオ管理]** オプションを選択します。

マネージャコンポーネントが現在ローカルマシンにインストールされていることを示すプログレスバーが表示されます。

5. マネージャのインストールが完了すると、マネージャが表示されます。

**重要:** 複数の管理者が同時に Arcserve RHA マネージャにアクセスし、権限に応じて、必要なときはいつでも変更することができます。最後の更新が、シナリオの最新の状態として有効になります。したがって、複数の管理者がマネージャを同時に操作しているとき、ある管理者が別の管理者が行ったばかりの変更を誤って上書きする可能性があることに注意してください。こうした状況が発生しないように、内部で対策をとることをお勧めします。

## Arcserve RHA PowerShell のインストール

このセクションでは、Arcserve RHA PowerShell のインストールについて説明します。

Arcserve RHA PowerShell を使用するには、事前に Windows PowerShell をインストールしておく必要があります。その後、Arcserve RHA PowerShell をインストールして、Arcserve RHA スナップインを PowerShell のコマンド セットに追加します。

**重要：** Arcserve RHA PowerShell と接続先の Arcserve RHA コントロール サービスは同じバージョンでなければなりません。

### Arcserve RHA PowerShell をインストールする方法

1. **Setup.exe** インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
2. **[インストール]** オプションをクリックします。**[インストール コンポーネント]** ページが表示されます。
3. **[Arcserve RHA PowerShell のインストール]** オプションをクリックします。**[セットアップ 言語の選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、**[OK]** をクリックします。

プログレス バーが表示されます。初期プロセスが完了すると、**[ようこそ]** ページが表示されます。

5. **[次へ]** をクリックします。**[使用許諾契約]** ページが表示されます。
6. **[同意する]** チェック ボックスをオンにして、**[次へ]** をクリックします。**[インストール先 フォルダ]** ページが表示されます。
7. 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。続いて、**[次へ]** をクリックします。**[インストール準備完了]** ページが表示されます。
8. **[インストール]** をクリックします。プログレス バーが表示されます。
9. インストールが完了したら、**[完了]** ボタンをクリックしてインストールを終了します。

サイレント モードで Arcserve RHA PowerShell をインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
RHAPowerShell.exe /S "/v/qn"
```

## Arcserve RHA のアンインストール

Arcserve RHA コンポーネントのアンインストールは、オペレーティングシステムのコントロールパネルにある **プログラムの追加と削除** から標準的な方法で簡単に実行できます。それぞれの Arcserve RHA コンポーネントを別個にアンインストールする必要があります。

- アンインストールでは、Arcserve RHA マネージャによって設定された、ユーザが生成した .xmc シナリオファイルを保存するためのデフォルトのディレクトリは削除されません。ディレクトリは以下のとおりです。
  - ◆ CA\_INSTALL\_LOG
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_co
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_root
  - ◆ INSTALLDIR\reports
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_events
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_help
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_scenarios
  - ◆ INSTALLDIR\ws\_template
- Arcserve RHA エンジンのアンインストール方法はさらに 2 通りあります。以前のバージョンのエンジンをアンインストールするには、以下の方法が最適です。
  - [リモート インストーラを使用 Setup.exe ファイルを使用](#)
- 以下のフォルダは、Arcserve RHA エンジンのアンインストール後に削除されません。
  - ◆ INSTALLDIR
  - ◆ INSTALLDIR\vm

## Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンインストール

Arcserve RHA をアンインストールしても、設定を保存してある Arcserve RHA ディスクリソースおよびリソースタイプは削除されません。

### 完全にアンインストールする方法

1. ストレージから Arcserve RHA ディスクリソースを削除します。
2. クラスタの実行中に、リソースタイプを削除するクラスタコマンドを実行します。

```
cluster.exe restype "Arcserve Disk" /delete
```

リソースタイプの削除は、Microsoft Failover Cluster マネージャーから実行することもできます。



## CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング

### 症状:

RHA エンジンのインストールまたはアンインストール中に以下のエラーが発生する。

Error 27508.Error installing COM+ application CAVSSSoftProv

### 解決策:

以下の手順に従います。

1. オペレーティングシステムを再起動します。
2. Arcserve RHA Engine サービスを停止します。
3. エンジンのルート パスから install\_engine.bat を実行します。
4. エンジンのルート パスから uninstall\_engine.bat を実行します。
5. プログラムの追加/削除からエンジンを削除します。
6. 「COM+ アプリケーション」および「CAVSSSoftProv アプリケーション」を削除します。
7. Arcserve RHA エンジンを再インストールします。

## RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング

### 症状:

Windows 2008 Workgroup サーバで、サーバのログイン ユーザが管理者グループのローカルアカウントである場合、検証失敗エラーになります。エラーは、RHA エンジンの検証時に発生します。

### 解決策:

この問題を解決するには、UAC を無効にするか、またはレジストリエントリ「LocalAccountTokenFilterPolicy」を 1 に設定します。

詳細については、microsoft.com 上の技術情報 [951016](#) を参照してください。

## リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング

### 症状:

リモート インストーラを使用した、Arcserve RHA エンジンの展開時に、検証失敗エラーが発生します。

### 解決策:

一部のセットアップでは、リモート WMI リクエストは無効で、検証失敗エラーが発生します。このエラーを解決するには、以下の手順に従います。

#### リモート WMI リクエストの有効化

1. ターゲット サーバで、[管理ツール]- [コンピュータの管理]に移動します。
2. [サービスとアプリケーション]を展開します。
3. [WMI コントロール]プロパティを右クリックします。
4. [セキュリティ]タブを選択して、[セキュリティ]をクリックします。
5. モニタリング ユーザ( 必要な場合 ) を追加してから、WMI データをリクエストするユーザまたはグループの [リモート有効化]をクリックします。
6. マシンまたは "Windows Management Instrumentation" サービスを再起動します。

必要な場合は、以下の手順を実行して、ファイアウォール経由で WMI を許可します。

#### Windows ファイアウォール経由での WMI の許可

すべてのユーザ( 管理者 以外を含め) は、ローカルコンピュータ上の WMI データを問い合わせることができます。リモート サーバ上の WMI データの読み取りについては、管理コンピュータからターゲット サーバに接続を確立します。ターゲット サーバが Windows XP および Windows 2003 付属の Windows ファイアウォール( インターネット接続ファイアウォール) を実行している場合は、リモート WMI リクエストの通過を許可するようにファイアウォールに伝達する必要があります。ターゲット コンピュータが Windows ファイアウォールを実行している場合は、そのターゲット コンピュータ上で以下のコマンドを実行します。

```
netsh firewall set service RemoteAdmin enable
```

引き続き「アクセスが拒否されました」というエラーが発生する場合、ユーザまたはグループに DCOM リモート起動およびアクティブ化権限を付与します。

以下の手順に従います。

1. [スタート]-[名前を指定して実行]をクリックし、「DCOMCNFG」と入力します。[OK]をクリックします。
2. [コンポーネント サービス]ダイアログ ボックスで、[コンポーネント サービス]、[コンピュータ]を展開します。[マイ コンピュータ]を右クリックしてから、[プロパティ]をクリックします。
3. [マイ コンピュータのプロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。
4. [COM セキュリティ]タブをクリックします。
5. [起動とアクティブ化のアクセス許可]セクションから、[制限の編集]をクリックします。
6. [起動とアクティブ化のアクセス許可]ダイアログ ボックスが表示されます。
7. ユーザの名前またはグループが表示されない場合は、[グループ名またはユーザー名]リストにユーザ名またはグループ名を追加します。
8. [起動 アクセス許可]ダイアログ ボックスから、[グループ名またはユーザー名]ボックス内のユーザおよびグループを選択します。
9. [許可]列、[ユーザ/グループのアクセス許可]から、[リモートからの起動]を選択し、[リモートからのアクティブ化]を選択します。[OK]をクリックします。

## 第4章: IIS 7.0/7.5 における IIS 6.0 管理互換のインストール

このセクションでは、IIS 6.0 Management Compatibility for IIS 7.0/7.5 のインストールに必要な手順を説明します。IIS 7.0/7.5 の HA シナリオを作成しない場合はこの手順が必須です。

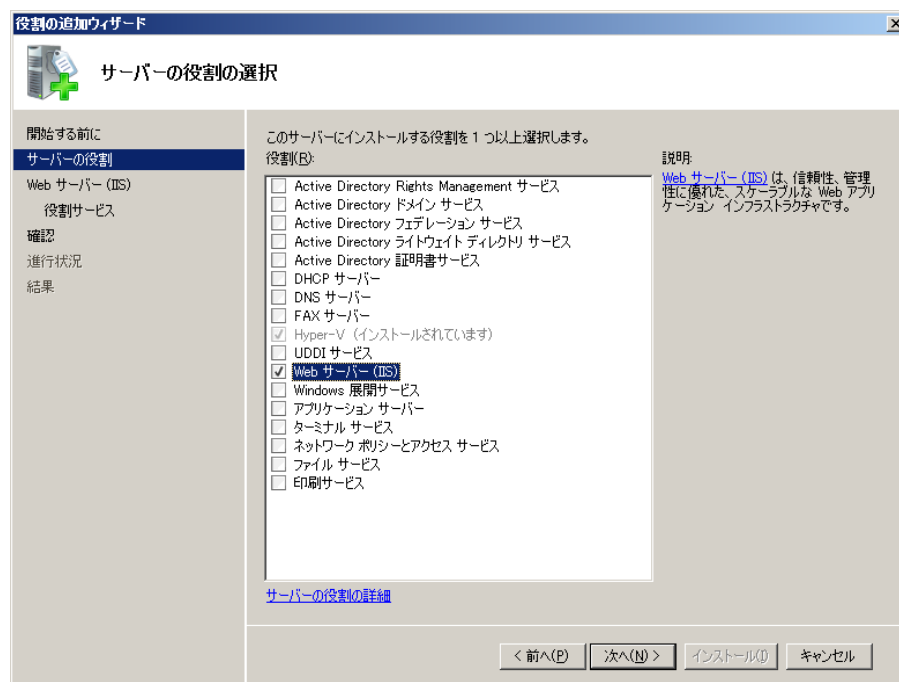
**注:** IIS 7.0/7.5 用の HA シナリオを作成する場合は、この処理をマスタホストとレプリカホストの両方で実行する必要があります。

### IIS 6.0 管理互換をインストールする方法

1. マスタまたはレプリカホストで、サーバマネージャを開き、[役割]オプションを選択します。次に、[役割の追加]ボタンをクリックします。

[役割の追加ウィザード]の最初のページが表示されます。

2. [次へ]をクリックします。[サーバの役割の選択]ページが表示されます。



3. [Web サーバ (IIS)] チェック ボックスをオンにし、[次へ]をクリックします。

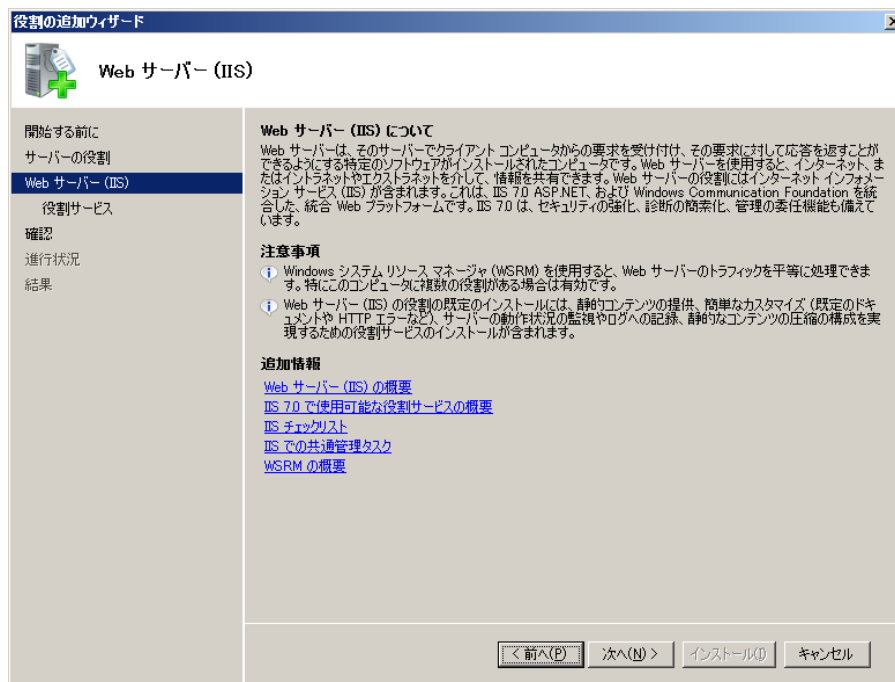
Web サーバ (IIS) に必要な機能を追加するかどうか確認するポップアップメッセージが表示されます。

4. [必要な機能を追加]をクリックします。

[サーバの役割の選択]ページが表示されます。

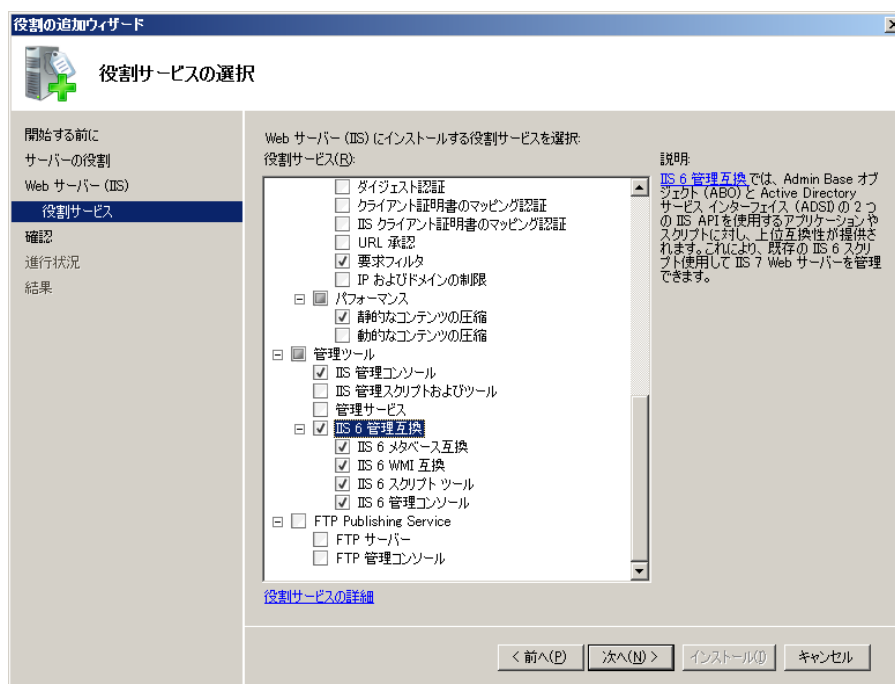
5. [次へ]をクリックします。

[Web サーバ (IIS)] ページが表示されます。



6. [次へ]をクリックします。

役割サービスの選択]ページが表示されます。



7. [役割サービス]リストで、[IIS 6 管理互換]チェックボックスをオンにします。

8. [次へ]をクリックし、ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

## 第5章: SSL 自己署名証明書のインストール

このセクションでは、SSL 自己署名証明書をインストールするために必要な手順について説明します。この手順が必要となるのは、リモート マシンからコントロール サービスに接続して概要 ページを開く際の通信を、自己署名証明書を使用して保護する場合です。

### SSL 自己署名証明書のインストール

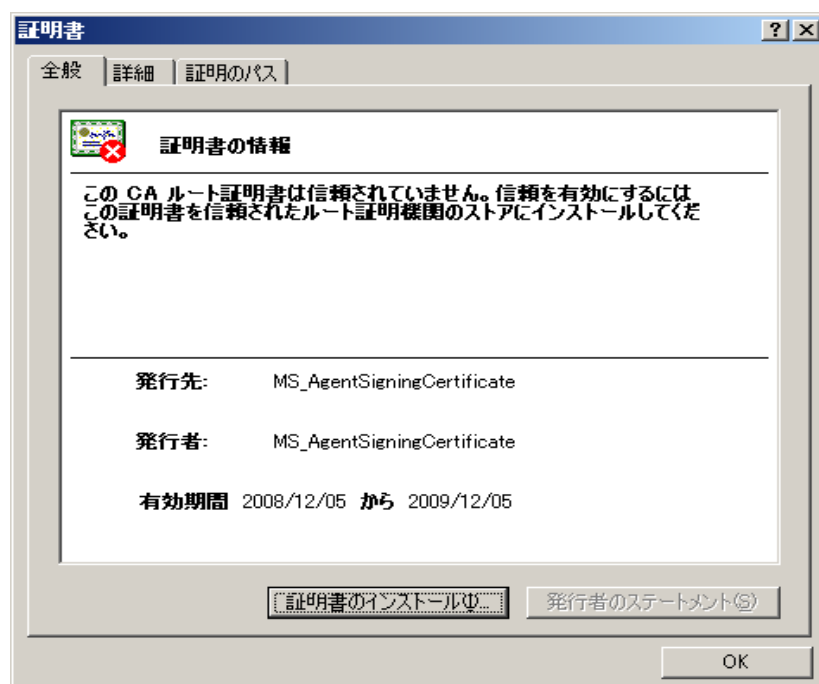
1. リモート マシンで、Internet Explorer を起動します。次のように、**[アドレス]**ボックスに、コントロール サービスのホスト名とポート番号を入力します。https://ホスト名:ポート番号/start\_page.aspx

**注:** ここでは、コントロール サービスの IP アドレスを指定することはできません。

証明書を表示するかどうかを確認するセキュリティの警告が表示されます。

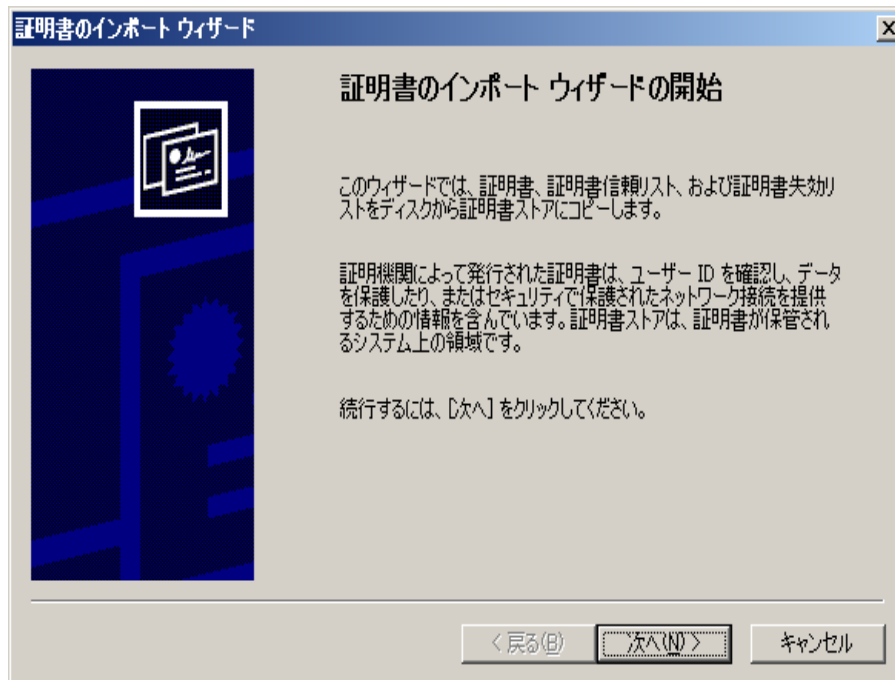
2. **証明書の表示** ボタンをクリックします。

**証明書** ダイアログ ボックスが表示されます。

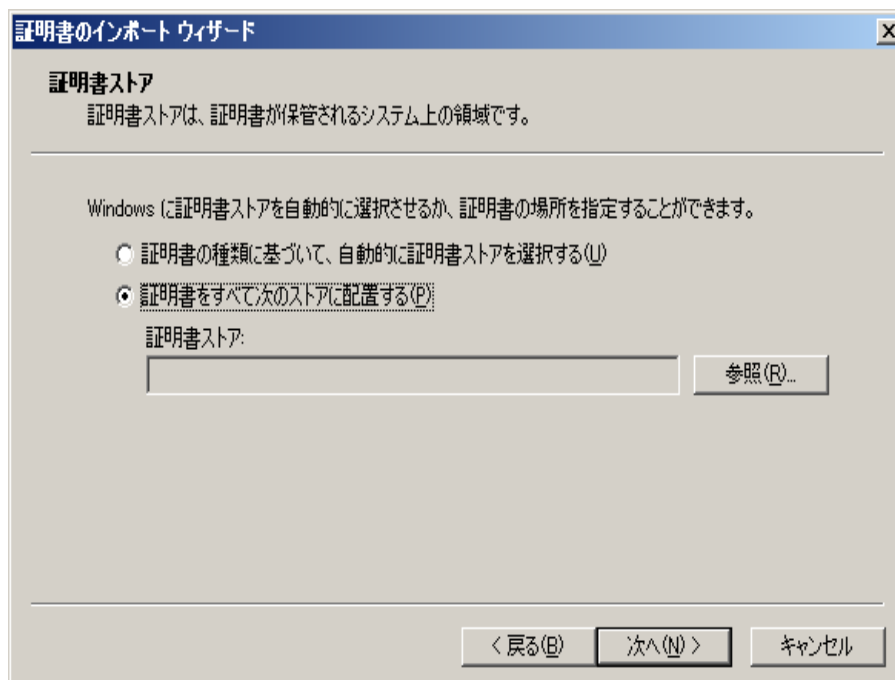


3. 証明書をローカルにインストールするには、**証明書のインストール** ボタンをクリックします。

**証明書のインポート ウィザード**が表示されます。



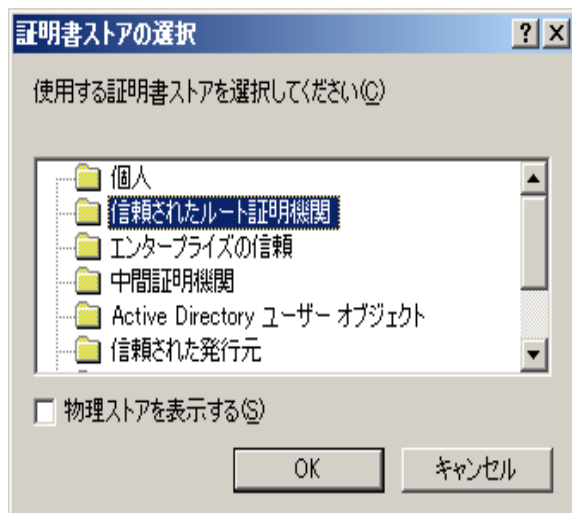
4. **次へ**をクリックします。**証明書ストア**ページが表示されます。



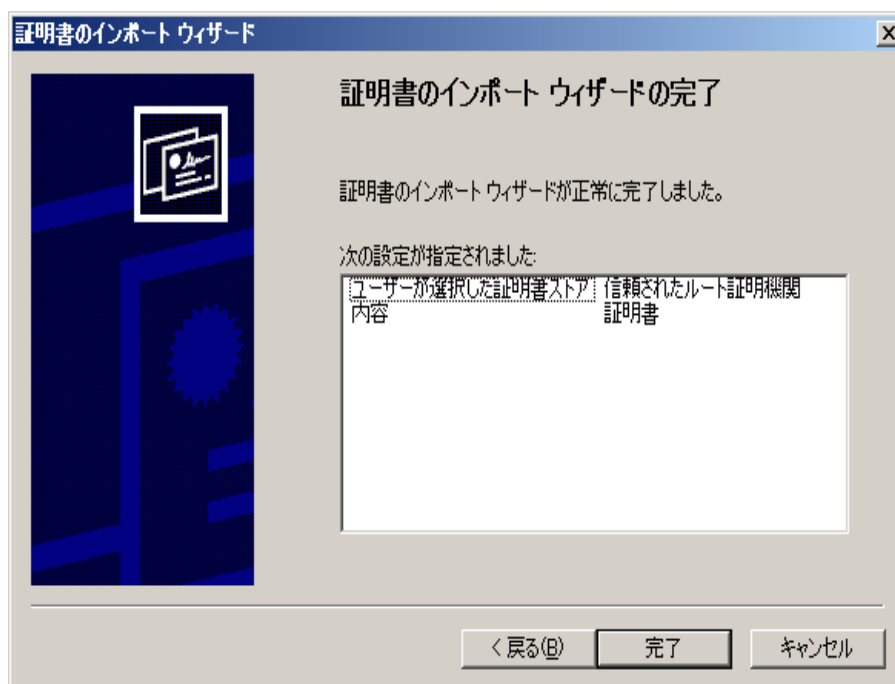
5. **証明書をすべて次のストアに展開する**オプションをオンにして、**参照**ボタンをクリックします。

**証明書ストアの選択**ダイアログボックスが表示されます。

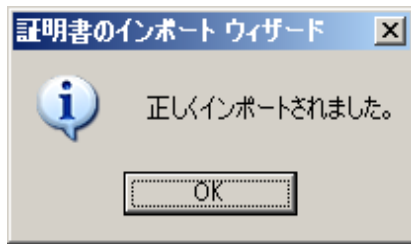




6. **信頼できるルート証明機関** ストアを選択し、**OK** をクリックします。  
**証明書のインポート ウィザード- 完了** ページが表示されます。



7. **終了** ボタンをクリックして**証明書のインポート**を終了します。  
**証明書のインストールを確認**するように求める確認メッセージが表示されます。
8. **はい** をクリックします。インポートが正常に行われたことを通知するメッセージが表示されます。



9. [OK]をクリックし、メッセージを閉じます。次に、[証明書]ダイアログ ボックスで [OK]をクリックして閉じます。

これで、コントロール サービスのマシンに接続して、概要 ページを開くことができるようになりました。

---

## 第6章: 期限切れ SSL 証明書の更新

このセクションでは、認可または自己署名され、期限が切れた SSL 証明書を更新するための手順について説明します。この手順は、すでに SSL 証明書を使用して通信を保護しており、現在の証明書が期限切れになったため新しい証明書をインストールする場合に必要です。

注: 更新プロセス中にコントロールサービスを停止する必要はありません。

### 期限切れ SSL 証明書の更新方法

1. 新しい証明書を手入して、コントロールサービスが実行されているマシンにインストールします。
2. 古い証明書のバインドを削除するには、以下のコマンドを実行します。

```
httpcfg.exe delete ssl -i 0.0.0.0:{CS SSL Port Number}
```

注: 「CS SSL Port Number」パラメータは、コントロールサービスのインストール中に入力したポート番号です。この値は、ws\_man.exe.config ファイルの ws\_port 値の下に存在します。

このコマンドの結果、エラーが返されることはありません。メッセージは以下で終了します。

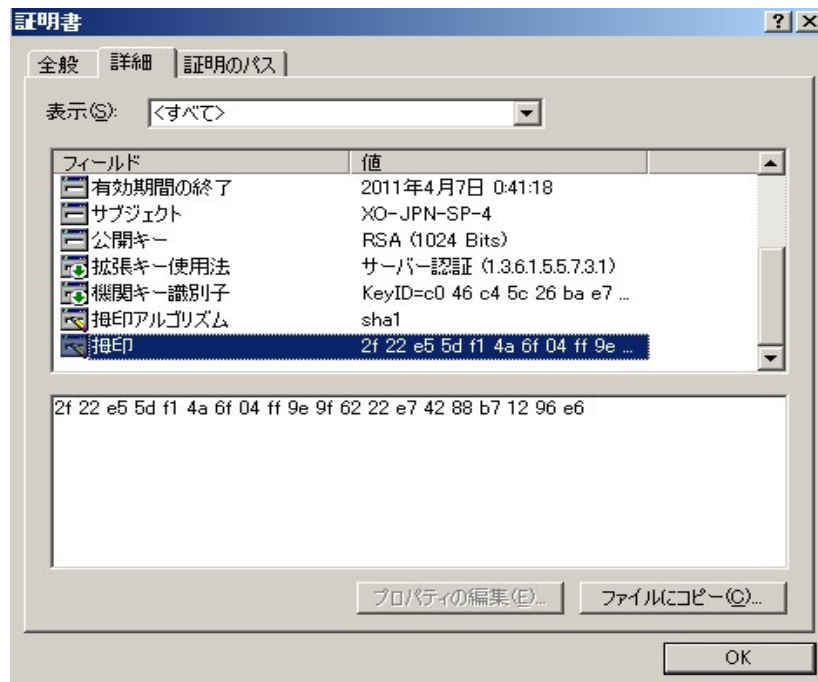
...completed with 0

3. 新しい証明書をコントロールサービス SSL ポートにバインドするには、以下のコマンドを実行します。

```
httpcfg.exe set ssl -i 0.0.0.0:{CS SSL Port Number} -h {New Certificate SslHash}
```

#### Notes:

- ◆ httpcfg.exe パラメータは、Windows Server の標準ユーティリティで、コントロールサービスのインストールディレクトリに存在します。
- ◆ 新しい証明書の SslHash パラメータは、認証ダイアログボックスにある詳細タブの拇印値の下にあります。



拇印値は、文字間にスペースを挿入せずに入力してください(例:  
8f40f9904372ccbd3706d72ed25d)。

このコマンドの結果、エラーが返されることはありません。メッセージは以下で終了します。

**...completed with 0.**

SSL 証明書が更新されました。

---

## 第7章: 64 ビット OS で 32 ビット Oracle をサポートするために必要な Oracle クライアントのインストール

64 ビット OS で 32 ビット Oracle を使用する場合、Oracle シナリオを正常に実行するため、Oracle マシンに Oracle Client 11.x 以上をインストールする必要があります。

### Oracle Client 11.x をインストールする方法

1. Oracle Client 11.x を次の場所からダウンロードします。  
<http://www.oracle.com/technology/software/tech/oci/instantclient/htdocs/winx64soft.html>
2. **Instant Client Package - Basic** をエンジンの現在のインストールディレクトリ、または OS のデフォルトパスの 1 つにインストールします。

